

2 IL-4とIL-13, どちらが要か

Which is necessary for the pathogenesis of atopic dermatitis, IL-4 or IL-13?

谷崎英昭

TANIZAKI, Hideaki

関西医科大学皮膚科学講座教授

Summary

アトピー性皮膚炎(AD)はかゆみを伴う湿疹を呈する疾患の代表であり、増悪と寛解を繰り返す。患者の多くがいわゆる「アトピー素因」をもつことも参考所見として重要であり、長年の基礎研究のデータをもとに開発された抗IL-4受容体抗体が治療効果を示していることから、ADの病態はType 2サイトカインであるIL-4やIL-13などを中心とした疾患であることが裏付けられている。本稿では、今後上市される予定である抗IL-13抗体製剤などの話題にも触れながら、アレルギー炎症発症にかかわるサイトカインの重要性について見直してみたい。

自然リンパ球

自然免疫にかかわる細胞として2010年に発見され、1~3型に分類される。抗原を認識する受容体をもたず、各種サイトカインを産生する。近年、ADを含むさまざまな疾患で病態形成への関与が示唆されている。

Type 2サイトカイン

活性化したTh2細胞もしくはグルー2自然リンパ球から産生されるサイトカイン。IL-4, IL-13, IL-31などがその代表である。

KEY WORDS

アトピー性皮膚炎(AD) / 自然リンパ球 / Type 2サイトカイン / IL-4 / IL-13